オープンカレッジ

名古屋市立大学大学院
経済学研究科准教授
藤田　菜々子氏

比較経済システム論の射程

「資本主義の多様性」研究が進行中である。第二次世界大戦後、冷戦構造下では資本主義と社会主義の経済体制比較が盛んになされたが、いまや資本主義圏のなかの多様性が問われている。ソ連が崩壊し、グローバル化が加速した1990年代以来、社会学・政治学・経済学に共通する研究課題となっている。

社会学者エスピン＝アンデルセンは、1990年に『福祉資本主義の三つの世界』を発表した。彼は「福祉レジーム」という切り口から見る。各国において福祉はどのように充当されているか。市場を通じた福祉が中心的なのか、家族による福祉か、それとも国家による福祉か。アングロ・サクソン諸国は主に市場を通じた自由主義レジーム、大陸欧州は家族による保守主義レジーム、北欧は国家による社会民主主義レジームをもつとされた。

ホールとソスキスという二人の政治学者が2001年に編集した『資本主義の多様性』は、企業を取り巻く制度的環境に注目し、二つの類型を示した。経済のやり取りは、市場だけでなく、協議を通じても行われる。人材の雇用や資金調達といった企業の経済活動が、主に市場経由の短期的関係に結び付いているか、あるいは協議中心の長期的関係に結び付いているかを見ることで、「自由な市場経済」（代表国アメリカ）と「コーディネートされた市場経済」（同ドイツ）が分けられた。さらに、急進的な技術革新に制度的優位性をもつのが前者であり、漸進的なそれを得意とするのが後者であるという。

「資本主義の多様性」と日本

経済学からは、2003年にアマーブルの『五つの資本主義』が出された。各国の諸制度の補完性についての多量のデータ分析から、五類型が示された。柔軟な市場によって特徴づけられる「市場ベース型」、硬直的な「地中海型」、高水準の福祉支出が特徴的な「社会民主主義型」、逆に低水準の「アジア型」、両軸において中庸的な「大陸欧州型」である。

日本は独特な位置づけを与えられてきた。日本の福祉レジームは、政府福祉支出が低水準である点で自由主義レジームに近似するが、福祉の供給が家族中心である点で保守主義レジームに近く、両者の中間事例とされる。「コーディネートされた市場経済」に属するが、ドイツのような産業単位ではなく、企業単位の制度的特性が重要となっている。そして、アジア型の特徴をもち、欧米諸国とは異なる（アジアのなかの多様性研究も進んでおり、最新の成果としては、植村他編『転換期のアジア資本主義』藤原書店を参照されたい）。

今日、さまざまな経済問題を抱える日本は、欧米の諸外国に政策的処方箋を求めることも少なくない。しかし、政策の直輸入は必ずしもうまくいくものではない。自国における既存の諸制度との折り合いがあるからであり、諸制度は歴史や価値観を内包するからである。「資本主義の多様性」研究は、われわれの立ち位置を明らかにしてくれる。自己を知れば、次の一歩はより確実に踏み出されうるはずである。

ふじた　ななこ　経済学史・制度経済学。名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士（経済学）。1977年生まれ。

©中部経済新聞社